

## H. 知的財産の出願・登録状況

### 1. 特許取得

特記事項なし

### 2. 実用新案登録

特記事項なし

### 3. その他

特記事項なし

## 参考文献

- 内山 研一(2007). 「現場の学としてのアクションリサーチ—ソフトシステム方法論の日本的再構築」  
白桃書房 2007年.
- Amir, Z., Haward, R. A., Barker, E. A., et al. (2000). Recent trends in the place of death of cancer patients: A cancer registry based study in the Yorkshire Region (1989-96). *Cancer Strategy*, 2, 55-60.
- Bowles, Kathryn H. et al. (2002). Patient Characteristics at Hospital Discharge and a Comparison of Home Care Referral Decisions. *JAGS*, 50(2), 336-342.
- Clare, P. et al. (2008). Predicting survival in patients with advanced disease, *European journal of Cancer*, 44, 1146-1156.
- Clinical standards board for Scotland (2002). Clinical standards for specialist palliative care. Retrieved February 8, 2009. from <http://www.palliativecarescotland.org.uk/publications/palliative.pdf>
- Gallo, W. T., et al. (2001). Factors associated with home versus institutional death among cancer patients in Connecticut, *Journal of American Geriatrics Society*, 49(6), 771-777.
- Gomes, B. & Higginson, J. (2006). Factors influencing death at home in terminally ill patients with cancer: Systematic review. *British Medical Journal*, 332(7540), 515-521.
- Grundy, E., Mayer, D., Young, H., et al. (2004). Living arrangements and place of death of older people with cancer in England and Wales: A record linkage study. *British Journal of Cancer*, 91(5), 907-912.
- 早川満利子, 高田みつ子(2004). 大学病院における終末期患者の在宅療養に関する看護師の認識. *日本看護学会論文集 成人看護Ⅱ*, 35, 80-82.
- 稗田君子(2005). 特定機能病院における地域医療連携センター専任看護師長としての役割. *看護展望*, 30(10), 88-93.
- Higginson, I. (1997). Health care Needs Assessment: second series the epidemiologically based needs assessment reviews. In Stevens, A. & Raftery, J. (Ed.), *Palliative and terminal care* (pp. 183-260), Radcliffe Medical Press.
- Higginson, I. J. (1997). Palliative and terminal care. In A. Stevens. & J. Raftery(Eds), *Health care needs assessment: Second series The epidemiologically based needs assessment reviews*. Abingdon: Radcliffe Publishing.
- Hopkinson, J.B., Hallett, C.E.(2001). Patients' perceptions of hospice day care: a phenomenological study. *International journal of nursing studies*, 38, 117-125.
- 井手麻利子(2006). 在宅緩和ケアを受けている患者の急変とその対処. *Emergency Care*, 19(12), 1131-1136.
- 今村由香, 小澤竹俊, 宮下光令他(1999). ホスピス・緩和ケアについての相談支援と情報提供に関する研究 末期がん患者と家族の意識. *日本がん看護学会誌*, (13)2, 60-68.
- 井尾和雄, 中込敦子(2005). 在宅死のすすめ 見る診る看取る. けやき出版.
- 川越博美(2006) 市民参加による地域包括的緩和ケアシステムモデル開発の実証的研究(課題番号

- 16390654) 平成 16～17 年度 科学研究費補助金報告書。
- 川越博美他(2008). 在宅ホスピス・緩和ケア基準作成の試み. 緩和ケア, 18(4), 357-364.
- 木澤義之(2001). がん終末期患者の在宅医療 その現状と課題. ターミナルケア, 11(4), 253-257.
- 厚生労働省大臣官房統計情報部(2008). 国民生活基礎調査. 厚生統計協会.
- 厚生労働省大臣官房統計情報部(2009). 人口動態統計平成 19 年. 厚生統計協会.
- 厚生労働省医政局総務課(2008) 平成 20 年 10 月 27 日 第 1 回終末期医療のあり方に関する懇談会 配付資料 2. Retrieved February 8, 2009. from <http://www-bm.mhlw.go.jp/shingi/2008/10/s1027-12.html>
- Lock, A. & Higginson, I. (2005). Patterns and predictors of place of cancer death for the oldest old. *BMC palliative care*, 4(6), 1-8.
- Madalon, A. O. (1985). Hospice in the United States: Multiple models and varied programs. *Nursing Clinics of North America*, 2(20), 269-279.
- 松永篤志, 永田智子, 村嶋幸代(2004). 特定機能病院における病棟看護師の退院支援についての認識および実施状況 退院支援部署の有無による比較に焦点をあてて. *病院管理*, 41(3), 185-194.
- National hospice and palliative care organization(2007). NHPCO Facts and Figures: Hospice care in America. Retrieved July 5, 2008. from [http://www.nhpco.org/files/public/Statistics\\_Research/NHPCO\\_facts-and-figures\\_Nov2007.pdf](http://www.nhpco.org/files/public/Statistics_Research/NHPCO_facts-and-figures_Nov2007.pdf)
- 大岩孝司(2003). 千葉県の緩和医療の現状と今後の展望 在宅ホスピスの立場から. 千葉県ターミナル研究会 15 周年記念誌.
- 大岩孝司(2005). 在宅緩和ケアの普及に向けて その阻害要因の検討. *微研ジャーナル友*, 28(2), 12-18.
- ライフデザイン研究所(2002) 終末期医療に関する意識調査 Retrieved February 8, 2009. from <http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/ldi/news/news0203.pdf#search='%E7%B5%82%E6%9C%AB%E6%9C%9F%20%E3%81%8C%E3%82%93%20%E8%AA%BF%E6%9F%BB'>
- Teno, J. M., Clarridge, B. R., Casey, V. et al. (2004). Family perspectives on end-of-life care at the last place of care. *JAMA*, 291(1), 88-93.
- 恒藤暁(1999). 最新緩和医療学. 最新医学社. 22-24.
- 宇都宮宏子(2004). 特定機能病院における地域連携と専任の退院計画調整看護師の役割. *看護展望*, 29(9), 982-990.
- von Gunten, C. F., Von Roenn, J. H., Johnson-Neely, K. et al. (1995). Hospice and palliative care: Attitudes and practices of the physician faculty of an academic hospital. *The American Journal of Hospice & Palliative Care*, 12(4), 38-42.

## 資料 1

### すみだ在宅ホスピス緩和ケア連絡会 (Sumida Home Hospice Palliative Care Association)

「健康で長生きができる」これは誰もが望むことです。しかし、人間は100%いつか必ず最期のときを迎えます。日本人の2人に1人はがんになり、3人に1人はがんで亡くなっています。がんの診断や治療法は進歩しましたが、がんで亡くなる人の数は減りません。がんで亡くなっていく人が、最期どこでどのように過ごして人生を締めくくっていくか、それは大きな課題です。

人としての価値は、いかに長く生きたかということより、いかに生きたかが大切だと思っています。死までの日々を、尊厳をもって生きる。それを支えるのがホスピスケアです。尊厳を守ることの基盤は、今まで紡いできた人との結びつきを断ち切らないこと。今まで住み続けた地域に住み続けることだと思っています。たとえがんで最期を迎えることになっても、このすみだの地で、家族や友人、地域の人々に支えられながら、自分らしい最期のときを過ごして欲しい。その願いで、このすみだホスピス緩和ケア連絡会を立ち上げました。

まだ生まればかりのひよこの会ですが、皆さんの手で、育てて下さい。それが「すみだまちづくり」につながることを信じています。

区民を中心に、医療・福祉・行政が力を合わせてすみだのみんなの力で、すみだの人々の最期が意味ある日々となるよう活動をしていきたいと願っています。皆様のご協力をお願いします。

#### 活動内容

##### 1. 区民に、すみだの地で、最期を迎えることができるということを知ってもらう

- ・自分の家や新たに計画している「緩和ケアグループホーム」で、地域の人々の助けをかりて、すみだで最期のときを過ごすことができることを知ってもらう。

##### 2. 在宅ホスピス緩和ケアについて学びあう

- ・在宅医療・福祉専門職の勉強会を開き、互いに情報交換をしながら学ぶ機会をつくる。
- ・病院の医療者が在宅ホスピス緩和ケアについて知る機会をつくる
- ・区民がボランティアとして在宅ホスピス緩和ケアに参加できるよう学ぶ機会をつくる。

##### 3. 在宅ホスピス緩和ケアのすみだネットワークを創る

- ・病院・診療所・薬局・訪問看護ステーション・介護支援事業所・介護事業所・ボランティア活動など在宅ホスピス緩和ケアに関わるサービスについて情報収集をし、区民が誰でも利用できるようネットで情報公開をする
- ・在宅ホスピス緩和ケアに関わるサービスがチームとして活動できるようネットワークを築く。

##### 4. 緩和ケアグループホーム(自宅ではない在宅)をつくり、すみだ在宅ホスピス緩和ケアの拠点とする

- ・家で療養が困難な一人暮らしや、介護力がない人は、緩和ケアグループホームに入り、家と同じような雰囲気の中で最期の時を過ごすことができるようにする。
- ・区民ボランティアや医療・福祉の在宅サービスがグループホーム入居者のケアにあたる。緩和ケアグループホームは、5～6人が入居できる家庭的なホームで、自分の家で生活していると同じような雰囲気の中で地域の人々に支えられながら最期の時を過ごすことができるホームにする。また、在宅緩和ケアの相談を受け、コーディネートもできる在宅緩和ケアの拠点とする。

#### すみだ在宅ホスピス緩和ケア連絡会 連絡先

川越博美(代表) 松竹耕治 桜井美徳 宮崎和加子 大金ひろみ 松浦志のぶ

住所: 〒130-0021 東京都墨田区緑1-14-4 5F

電話: 03-5669-8302 ファックス: 03-5669-8310

Eメール: s-sumida@pallium.co.jp

ブログ: <http://sumidahomehospice.blog25.fc2.com/> (家で死ねるまちづくり)

資料 2

アクション 2 : 社会資源調査と公表

調査票

最期まで暮らせるまち すみだ 在宅ホスピス緩和ケアに関する調査  
(診療所用)

I 貴医療機関の概要、体制についてお伺いします。\*は該当するものを○で囲んでください。

医療機関名:		
*医療機関の種類:無床診療所・有床診療所		
担当医師: 名(担当医師の氏名: )		
住所:〒 - 墨田区		
TEL:	FAX:	
e-mail アドレス :	(*公表:可・不可)	
ホームページ URL:	(*リンク:可・不可)	
最寄の交通機関:		
訪問対象地域:		
2008年1月~12月の在宅末期がん患者数: 名 在宅死がん患者数: 名		
*がん患者 の在宅ケア 連携先 訪問看護	診療所内の訪問看護部門	あり・なし
	同グループの訪問看護ステーション	あり(名称: )・なし
	他機関の訪問看護ステーション	頻度の高い方を選択してください。 ( ) 特定のステーション(名称: ) ( ) 患者により異なるステーション
*在宅療養支援診療所である:		はい・いいえ
がん患者さん・ご家族へのメッセージがありましたら、ご記入ください。		

II 貴医療機関における末期がん患者の在宅ケアについてお伺いします。当てはまるほうに○印をつけてください。

貴医療機関で受け入れるがん患者について	回答欄
1. 独居の患者の場合でも受け入れる	はい・いいえ
2. 患者本人ががんであることを知っている患者のみ受け入れる	はい・いいえ
3. 患者本人ががんであることを知らなくても受け入れる	はい・いいえ

提供する在宅ケアについて	
<b>A 医師の往診</b>	
1. 定期的な訪問診療をする	はい・いいえ
2. 必要時の往診をする	はい・いいえ
<b>B 緊急時対応</b>	
1. 24時間、電話連絡を受ける体制にある	はい・いいえ
2. 往診可能な時間帯	24時間 / 早朝・夜間・休日

裏面に続きます

対応可能な医療処置について	
<b>A 疼痛緩和</b>	
1. 経口モルヒネ/オキシコドンを用いた疼痛緩和が可能	はい・いいえ
2. モルヒネ坐薬を用いた疼痛緩和が可能	はい・いいえ
3. フェンタニル・パッチを用いた疼痛緩和が可能	はい・いいえ
4. モルヒネ持続皮下注射を用いた疼痛緩和が可能	はい・いいえ
5. モルヒネ硬膜外持続注入を用いた疼痛緩和が可能	はい・いいえ
<b>B 在宅酸素療法</b>	はい・いいえ
<b>C 栄養・補液</b>	
1. 経鼻栄養が可能	はい・いいえ
2. 胃瘻管理が可能	はい・いいえ
3. 末梢血管を用いた点滴が可能	はい・いいえ
4. 中心静脈カテーテルを用いた高カロリー輸液が可能	はい・いいえ
5. ポート注入による高カロリー輸液が可能	はい・いいえ
<b>D 穿刺</b>	
1. 胸腔穿刺を在宅で行うことが可能	はい・いいえ
2. 腹腔穿刺を在宅で行うことが可能	はい・いいえ
<b>E 各種カテーテルの管理</b>	
1. 腎瘻	はい・いいえ
2. PTCD	はい・いいえ
3. 気管カニューレ	はい・いいえ

4.フォーレカテーテル	はい・いいえ
-------------	--------

入院施設との連携について（無床診療所の場合は必ずお答えください）	
1.特定の病院と連携している	はい・いいえ
2.非特定の病院を紹介する（一般病棟）	はい・いいえ
3.非特定の病院を紹介する（緩和ケア病棟）	はい・いいえ

代替医療について	
1.代替療法は患者・家族の意向に任せている	はい・いいえ
2.代替療法を希望する患者は受け入れない	はい・いいえ

診療費に関して	
医療保険外の患者負担分	交通費・材料費・相談料・その他（                      ）

ご質問、ご意見等がありましたら、ご記入ください。

ご回答ありがとうございました。

最期まで暮らせるまち すみだ 在宅ホスピス緩和ケアに関する調査  
(訪問看護ステーション用)

事業所	事業所名		
	管理者名		
住所	〒 ー 墨田区		
電話番号	03ー ー	FAX	03ー ー
E-mail		URL	
最寄り駅			
対象地域			
がん患者 対象者数	2008年1～12月 在宅がん患者数 名		在宅死がん患者数 名
がん患者さん・ご家族へのメッセージがありましたら、ご記入ください。			

1. 訪問看護ステーションでがん患者を看るときの体制についてうかがいます。1)～3)の項目について、当てはまるほうに○印をつけてください。

1) 24時間連絡が可能である	いいえ( )	はい( )
2) 緊急時には24時間訪問が可能である	いいえ( )	はい( )
3) 在宅末期医療総合診療料の算定により、主治医と連携して訪問している 全てのがん患者に当てはまらない場合は、頻度の高いほうに○印をつけてください。	いいえ( )	はい( )

2. 受け入れ可能ながん患者についてうかがいます。1)～3)の項目について、当てはまるほうに○印をつけてください。

1) 昼夜とも家族が付き添えるがん患者を受け入れている	いいえ( )	はい( )
2) 日中独居のがん患者を受け入れている	いいえ( )	はい( )
3) 昼夜とも独居のがん患者を受け入れている	いいえ( )	はい( )

3. がん患者の在宅ケアを行うとき、連携する主治医についてうかがいます。

1) 患者宅の訪問をしない病院の主治医とも連携する	いいえ( )	はい( )
2) 往診・訪問診療を行う主治医について、頻度の高いほうを一つだけ選んでください。 ( )患者によって異なる主治医と連携する ( )いつも決まった主治医と連携する		

3) 2)で「いつも決まった主治医と連携する」を選んだ方はその診療所名をご記入ください  
診療所名：

4. 訪問看護ステーションで対応可能な医療処置についてうかがいます。

1) 疼痛緩和について、当てはまる項目に○印、当てはまらない項目に×印をつけてください。  
( ) モルヒネ・オキシコドン内服 ( ) フェンタニルパッチ ( ) モルヒネ坐薬  
( ) モルヒネ持続皮下注射 ( ) モルヒネ持続硬膜外注入

2) 他の医療処置について、当てはまる項目に○印、当てはまらない項目に×印をつけてください。

( ) 褥そう処置 ( ) 中心静脈栄養 ( ) ポート注入  
( ) PTCO ( ) 腎ろう ( ) 人工肛門・人工膀胱  
その他可能な処置 ( )

5. 遺族ケアについてうかがいます。

1) プログラム化した遺族ケアを行っている いろいろ( ) はい( )

2) 1)で「はい」を選んだ方のみ、当てはまる項目に○印、当てはまらない項目に×印をつけてください。

( ) 手紙や葉書を出す ( ) 電話をする ( ) 訪問をする

6. 専門教育を受けた看護師についてうかがいます。

1) 認定看護師がいる いろいろ( ) はい( )

1)で「はい」を選んだ方のみ、上段に専門領域、下段にその人数をお答えください。

専門領域：

人数：

2) 専門看護師がいる(大学院修了後の取得予定も含む) いろいろ( ) はい( )

2)で「はい」を選んだ方のみ、上段に専門領域、下段にその人数をお答えください。

専門領域：

人数：

7. 何かご質問、ご意見等がありましたら、ご記入ください。

最期まで暮らせるまち すみだ 在宅ホスピス緩和ケアに関する調査  
(薬局用)

薬局名			
担当者			
住所	〒	—	
	墨田区		
電話番号		FAX	
E-mail			

1. 2008年1月～12月の麻薬処方箋の取扱いとがん患者数について教えてください。

麻薬処方箋取扱い	約	枚	がん患者数	約	名
----------	---	---	-------	---	---

2. 取り扱った麻薬についてうかがいます。2008年1月～12月の間で、取り扱った麻薬の有無を投与経路別にお答え下さい。

- 1) 経口麻薬の取扱い

( ) あり	( ) なし
--------	--------

- 2) 貼布麻薬の取扱い

( ) あり	( ) なし
--------	--------

- 3) 座薬麻薬の取扱い

( ) あり	( ) なし
--------	--------

- 4) 注射麻薬の取扱い

( ) あり	( ) なし
--------	--------

3. がん患者への訪問服薬指導についてうかがいます。

- 1) がん患者への訪問服薬指導は可能でしょうか。該当する方に○印をつけて下さい。

( ) いいえ	( ) はい
---------	--------

- 2) 2008年1月～12月のがん患者への訪問服薬指導状況について教えてください。

がん患者への訪問服薬指導回数	約	回	がん患者数	約	名
----------------	---	---	-------	---	---

4. がん患者さん・ご家族へのメッセージがありましたら、ご記入ください。

--

最期まで暮らせるまち すみだ 在宅ホスピス緩和ケアに関する調査  
(居宅介護支援事業所用)

事業者名			
所在地			
担当者名		介護支援専門員数	名
連絡先 TEL		FAX	
ホームページ			
E-mail			

Q1. 昨年1年間でがんの患者さんの利用は何名でしたか？(概算でも可)

	名
--	---

Q2. 今後、末期がん患者さんの利用の受け入れは可能でしょうか？該当する方に○印をつけて下さい。

はい	・	いいえ	・	その他( )
----	---	-----	---	--------

Q3. がん患者さん・ご家族へのメッセージがありましたら、ご記入ください。



#### IV. 研究成果

2006年度

##### 論文発表

1. Hiroko Komatsu (2006). Mid-term report on St Luke's College of Nursing's 21<sup>st</sup> century Center of Excellence Program: Core elements and specific goals of people-centered care. Japan Journal of Nursing Science, 3, 71-76
2. Naoko Hayashi, Hiroko Komatsu, Yoshiko Sakai, Noriko Iba, Akiko Tonosaki, Kazuko Katagiri (2006). Perceived difficulties and coping as predictors of adaptation among cancer nurses. Japan Journal of Nursing Science, 3, 131-141

##### 学会発表

1. Yumi Sakyō, Kazuhiro Nakayama, Hiroko Komatsu, Tomoko Matoba(2006), "Kango-net": A community website connecting citizens and nursing personal, The 9<sup>th</sup> International Congress on Nursing Informatics, 2006.
2. Hiroko Komatsu(2007), Empowerment and harmony in cancer nursing(Chairperson's Address), The 2<sup>nd</sup> International Conference Japanese Society of Cancer Nursing, p21.
3. Yoshie Murakami, Hiroko Komatsu, Kazuhiro Nakayama, Noriko Iba, Koko Muraoka, Hoshiko Sakai, Kumi Suzuki, Hideo Ambo, Naoko Matsuzaki, Mikazu Tomita, Yukiko Iioka, Naoko Hayashi, Wakako Ichikawa, Mika Nomura(2007), Multidisciplinary approach of breast cancer in Japan-A survey of outpatient nurse managers-, The 2<sup>nd</sup> International Conference Japanese Society of Cancer Nursing,p51.
4. Mikazu Tomita, Hiroko Komatsu, Hideo Ambo, Naoko Matsuzaki, Yukiko Iioka, Kumi Suzuki, Kazuhiro Nakayama, Noriko Iba, Yoshie Murakami, Naoko Hayashi, Wakako Ichikawa, Koko Muraoka, Yoshiko Sasaki, Mika Nomura, Multidisciplinary approach of breast cancer in Japan-A survey of outpatient nurse managers-, The 2<sup>nd</sup> International Conference Japanese Society of Cancer Nursing,p52.
5. Hiroko Komatsu, Akiko Tonosaki, Hanako Misao, Naoko Hayashi, Yukiko Iioka, Naoko Matsuzaki, Noriko Iba, Yoshie Murakami, Mikazu Tomita, Kaori Yagasaki, Yoko Tamahashi, Kumi Suzuki, Wakako Ichikawa(2007), Development and evaluation of a nursing guideline for prevention, early detection and treatment of extravasation in outpatient cancer chemotherapy,

The 2<sup>nd</sup> International Conference Japanese Society of Cancer Nursing,p54.

6. 吉川菜穂子・内田千佳子・酒井昌子・小松浩子・川越博美, 在宅ホスピス市民ボランティア教育プログラム開発のためのニーズアセスメントー市民の健康状態・生活満足度と生き方(老い方・死に方)に関してー, 聖路加看護学会誌, 10 (2) 43, 2006.
7. 高橋恵子・菱沼典子・馬渡淳子・松本直子・鈴木久美・石川道子・吉川菜穂子・内田千佳子他, 看護大学が市民に提供する健康相談における相談内容と利用者の傾向, 聖路加看護学会誌, 10 (2) 33, 2006.
8. 吉川菜穂子, 石崎順子, 内田千佳子, 大金ひろみ, 川越博美, 健康行動モデルを用いた在宅ホスピスボランティア教育プログラムの評価, 日本公衆衛生学会誌, 2006.
9. 吉川菜穂子・石崎順子・内田千佳子・大金ひろみ・川越博美, 都市部における住民のソーシャルサポートと地域活動・生き方との関わり, 日本ヘルスプロモーション学会誌, 2006.
10. Chikako Uchida, Hiromi Kawagoe, Naoko Yoshikawa, Hiromi Ogane , Community-based palliative careーNational survey of community palliative care teamー, The 3rd International Conference on Community Health Nursing Research, 2007.
11. Naoko Yoshikawa, Hiromi Kawagoe, Chikako Uchida , Hiromi Ogane , Community-based palliative careーDevelopment of educational program for home hospice volunteer, The 3rd International Conference on Community Health Nursing Research , 2007.

## 2007年度

### 論文発表

1. 矢ヶ崎香, 小松浩子, 外来で治療を続ける再発乳がん患者が安定した自分へ統合していく体験, 日本がん看護学会誌, 21 (1) 、57-65、2007.
2. Hiroko Komatsu, Empowerment and Harmony in Cancer Nursing, Journal of Japanese Society of Cancer Nursing, 21(2), 87-91, 2007.
3. Naoko Okubo, Michiko Hishinuma, Keiko Takahashi, Chikako Uchida, Michiko Ishikawa, Naoko Matsumoto, Kumi Suzuki, Evaluation of Health Education Program for Active Citizens, Bulletin of St. Luke's College of Nursing, 34, 2008.

### 学会発表

1. Naoko Okubo, Chikako Uchida, Hiroko Komatsu, Hiromi Kawagoe, Essential components of the comprehensive community palliative care system with citizen involvement in Japan, International Conference on Community Health Nursing Research, Spain, 2007.

2. 大久保菜穂子、内田千佳子、大金ひろみ、川越博美、対象者のニーズを取り入れた終末期における健康教育プログラムの質的評価、第5回日本ヘルスプロモーション学会、2007.
3. 内田千佳子、大久保菜穂子、大金ひろみ、川越博美、最期まで自宅で過ごすことができた末期がん在宅療養者を支援したチームの特性、第5回日本ヘルスプロモーション学会、2007.
4. 大久保菜穂子、内田千佳子、大金ひろみ、川越博美、家で死ねるまちづくりに向けた市民向け講座の教育内容の評価、第5回日本ヘルスプロモーション学会、2007.
5. 大久保菜穂子、菱沼典子、高橋恵子、内田千佳子、石川道子、松本直子、鈴木久美、市民主導型健康生成のための市民ボランティア育成講座の評価、第66回日本公衆衛生学会、2007.
6. Keiko Takahashi, Michiko Hishinuma, Cichiko Ishkawa, Naoko Okubo, Naoko Matsumoto, Chikako Uchida, Eri Yamaoka, Masako Yamada, Keiko Indo, (2007), Health information service activities at nursing college in Japan : Evaluation of community-based activities, The 6<sup>th</sup> International Nursing Conference, Korea, 2007.

## 2008年度

### 論文発表

1. Ki Kyung Kim, Chung Yul Lee, Kwang Sook Kim, Yoon Hee Cho, Hiroko Komatsu, Weihua Zhang, Yann-Fenn Chao(2008): Perception on Development of Hospice Law of Hospice Nurses in Hospice Institutions. J. of Nursing Management 14(3):332-343.
2. Hiroko Komatsu(2008): Five years activities of St. Luke's College of Nursing 21st Century COE program: Creation of People-Centered Care, Japan Journal of Nursing Science,5(2), 117-122.
3. Hiroko Komatsu(2008): Developmental Process of People-Centered Care, Japan Journal of Nursing Science,5(2), 137-142.
4. 内田千佳子、山田雅子：高齢者がん患者の緩和ケア、緩和ケア、18(3)、214-219、2008.
5. 川越博美、内田千佳子、大金ひろみ、霜田美奈、小松浩子：在宅ホスピス・緩和ケア基準作成の試み、緩和ケア、18(4)、357-364、2008.
6. 川越博美、在宅ホスピスボランティアの活動ー在宅ホスピスケアチーム・パリアンの取り組みー、特集ボランティアで変わる緩和ケア、緩和ケア、18(5)、392-394、2008.
7. 大久保菜穂子、内田千佳子、山田雅子：ホスピス・緩和ケアにおけるボランティアの教育・役割、緩和ケア、18(5)、405-410、2008.

#### 学会発表

1. 山田雅子、梅田恵、小迫富美恵、木全真理、在宅緩和ケアに関わる訪問看護師へのコンサルテーションの方法と効果について、第23回日本がん看護学会学術集会、2009.
2. 廣岡佳代、山田雅子、梅田恵、内田千佳子、緩和ケアにおける卒後教育～国際比較調査の報告から～、第23回日本がん看護学会学術集会、2009.
3. Kayo Hirooka, Masako Yamada, Megumi Umeda, International Comparison of Oncology Clinical Nurse Specialist Practiced and education: Implications for Expanding Their Scope of Practice in Japan, 15<sup>th</sup> International Conference on Cancer Nursing, 2008.